

事業所における自己評価結果

公表 令和5年3月31日

事業所名: 豊加市児童発達支援センターあおば学園

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	13	7	・人数に対して狭いと感じる部屋がある。 ・現在仮面を使っているため、窓がない部屋もあるが、空間の使い方がわり方を工夫している。	・基準を満たしているが、安全に配慮して今後も実施していく。
	2 職員の配置数は適切であるか	14	6	・フリー保育士がいない。 ・出席人数や活動内容、クラスの状況により職員体制を工夫している。	・基準を満たしているが、安全に配慮して体制を整備していく。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	19	1	・クラスによってやり方が違っているので、職員の考え方をすり合わせ、園で統一させていく必要があると感じる。 ・現在仮面を使っているため、窓がない部屋もあるが、空間の使い方がわり方を工夫している。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子どもたちの活動に合わせた空間となっているか	20	0	・食後や降園後の清掃、登園前の安全点検を確認している。 ・日々の反省により改善するよう努めている。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加しているか	19	1	・個別支援計画や特別支援計画を基に、定期的に行うよう会議等の年間予定を組んでいる。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	19	1	・意向があまり出てこない。 ・個別支援計画や特別支援計画を基に、定期的に行うよう会議等の年間予定を組んでいる。	・気軽に保護者の意見を表出できる雰囲気や環境づくりを徹底していく。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	18	2	・形だけになっていないか	・結果を踏まえ、改善が必要なのは、改善策を検討し、評価を定期的に行っていく。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	14	6		
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	19	1	・研修の確保は少ないが、巡回指導があり、そこを勉強の場ととらえている。 ・次期職員は受けていない場合もある。	・全ての職員が研修の機会がえられるように調整していく。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	20	0		
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	16	4	・共通のものはないが、発達検査等を参考にして、日々の療育に活かそうとしている	・引き続き、必要に応じて発達検査の実施や、支援に活かせる材料としていく。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	20	0	・地域支援の内容を要検討。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	20	0		
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	17	3		
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	20	0		
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	19	1		
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	19	1	・できていない日もあり、十分ではない。	・限られた時間の中で実施可能な方法を検討していく。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	18	2	・できていない日もあり、十分ではない。	・限られた時間の中で実施可能な方法を検討していく。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	20	0		
関係機関や保護者との連携	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	20	0		
	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	20	0	・開催時にはよりふさわしいと思われる職員が参加しているが、会議自体必要時以外はあまり行っていない。	・必要性を関係機関と共有していく。
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	20	0	・公立保育園5歳児が来園し、あおばの子どもと一緒に遊んだ(数回、地域交流)	
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	20	0	・保護者を通し医療機関の情報を共有している。	・引き続き、関係機関と連携を図っていく。
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	20	0	・保護者を介して連携している。 ・契約書と重要事項説明書に記載し、保護者に説明している。	・引き続き、関係機関と連携を図っていく。
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園等)の間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	19	1	・相談支援事業所を介して担当者会議を開催。 ・引き続きの会議を実施したり、電話で報告したり、書面をお渡ししたりしている。	・引き続き、引継ぎや担当者会議等を行い、切れ目のない支援が受けられるようにしていく。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学校前)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	20	0	・引き続きの会議を実施したり、電話で報告したり、書面をお渡ししたりしている。	
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	19	1	・職員が出向き、見学を実施。 ・特別支援学校コーディネーターによる巡回相談の他、オンラインでの外部講師による研修を受講。	
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	20	0	・園に来てもらい交流を実施。 ・公立保育園5歳児が来園し、あおばの子どもと一緒に遊んだ(数回、地域交流)	・実施可能な方法を引き続き検討、実施していく。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	12	8	・障害児通所支援事業所連絡協議会の会議等に出席し、情報共有等を行っている。	
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	20	0	・毎日、担任が連絡ノートでやりとりし、特記事項は、他の職員にも伝えている。	
31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	14	6	・コロナで中止等、続かなかつたので、来年度より再開していく。 ・連絡帳や口頭でのアドバイス程度(伝え方の工夫が必要)		

保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	20	0	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のわらわら及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	20	0	・1人につき年2～3回、ニーズの確認、説明、同意確認(計画にサイン)記載していただいたコピーをお渡しするための個人面談を全員に実施している。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	20	0	・毎日の連絡ノート、個人面談、必要時の心理相談、電話等で行っている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	19	1	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	20	0	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	20	0	・園だよりの内容の検討の必要あり。 ・毎月の園だよりの配布、行事等のお知らせ、必要時のメールなどで発信している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	20	0	・退社時にキャビネットに保管し、施錠している
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	20	0	・子どもには、視覚的な手がかりを用いている
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	11	9	・お散歩でずれ違った時にあいさつはしているが、コロナの影響もあり接点を持っていない。
	非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	20	0
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	20	0	・同じような訓練内容になってきているので、実際の時を想定した(より具体的な)訓練内容も検討していく必要がある。
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	20	0	・看護師を中心に入園時全員に確認し、その後子どもの状態について常に保護者と情報共有し、毎日職員間でも全員が把握できるようにしている。
44		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	20	0	・医療機関が作成した書類等を見ながら、園長、看護師、担任、管理栄養士が保護者と詳細を確認している。
45		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	20	0	・口頭での報告を職員全員がいるところで行い、その後作成した書類を供覧している
46		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	20	0	
47		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	15	5	・身体拘束を含めた虐待を防止するため、虐待防止責任者の選定、苦情解決体制の整備、虐待防止に関する研修の実施に取り組んでいることを重要事項説明書に記載して保護者に説明している。